

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	三芳町立みどり学園		
○保護者評価実施期間	R8年 1月7日		～ R8年 1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	R8年1月7日		～ R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月 5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所と併設していることによるインクルーシブな環境で療育を実施できること	こどもの発達や特性に合わせ、保育所の行事や同学年クラスの活動への交流を通じて、大きな集団で楽しく参加できる支援を行っています。集団の中でのルールや手順の理解を促し、友だちと楽しく関わる経験を積める環境づくりに努めています。また、保育所の子どもが本園に来て一緒に活動する逆交流も実施し、双方の連携を強化しています。	職員間で具体的な支援方法について意見交換を行い、保育所職員とは定期的に情報交換を行い、合同行事や交流を実施して子ども同士の関わりを促します。職員向け研修で支援力を高め、逆交流を通じて連携と理解を深めています。
2	関係機関と連携があること	在園児に対する支援だけでなく、地域の保護者から発育や発達に関する相談があった際には、保護者の同意を得て保健師や福祉課と情報共有を行っています。乳幼児健診等の公的施設と連携し、切れ目のない移行支援や地域支援を意図的に実施することで、一人ひとりの子どもに適して継続的な支援体制の充実を図っています。	引き続き子どもの支援状況や課題について情報交換、共有をします。また、情報共有の仕組みを充実させることで、発育・発達の状況把握を的確に行い、乳幼児健診等の結果も踏まえた切れ目のない移行支援を推進し、地域支援の充実を図っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職が常勤で配置されていないため、子どもの状況に対して即時に専門的な支援や対応が遅れてしまう場合がある。	専門職が常勤で配置されていないため、必要な時に迅速な専門支援ができず、対応が遅れることがある。また情報共有の遅れなどタイムラグが生じやすくなる。	専門職の勤務時にカンファレンスを実施し、職員間で相談できる体制は整っています。カンファレンスを通じて、子どもの課題や適切な支援方法を職員間で共有できているため療育の現場に取り入れて支援を行うことはできています。専門職による研修や勉強会を設け、職員全体のスキルアップを図り、質の高い支援を安定して提供できるように専門性を高める。
2	職員の異動によって職員メンバーの変動により、安定した療育の提供が難しくなる場合がある。	職員の異動により療育方針や児童情報の共有が不十分になり、支援の継続性が損なわれます。職員間の連携不足や児童発達支援管理責任者の負担増大、児童や保護者の安心感を損ない、信頼関係の構築を妨げる要因ともなっている。	児童発達支援管理責任者を2名配置できていることで職員指導・フォローが充実し、安定した療育提供が可能になります。児童発達支援管理責任者も異動があるため、次の責任者を育成し継続的に安定した療育体制を維持していく必要がある。
3			